

「広島カナダ協会」設立趣意書

広島県内には、現在、諸外国との間に多くの友好協会があり、それぞれ協会を中心として相互理解と国際親善を目指し、交流を深めております。

21世紀に向け、太平洋地域の連帯を社会・文化・経済等各分野を通じてより緊密にしていこうとする動きが高まっている今、日本の対岸の北米大陸に位置するカナダとの交流について、このような民間の活動によりさらに深めていきたいと思っております。

広島とカナダとは、明治初期から第二次大戦までは移民を交えての交流が主でしたが、戦後は自動車の輸出や木材関係の輸入を中心とした貿易取引が盛んになり、これら経済交流を通じ、製鉄関係が縁で福山市とハミルトン市（オンタリオ州）との間で姉妹都市縁組みが行われ（1976年）、また、最近では平和問題などを含めた学術交流や留学など、市民レベルでの多種・多彩な交流が行われています。主なものでは、カナダの子供達が世界平和の願いをこめて折った千羽鶴が広島市の幟町小学校へ送られてきたのがきっかけで、同校とハミルトン小学校（ノバスコシア州ハリファクス市）との間で図画や作文の交換などの交流が始まっており、また、広島修道大学ではトロントのヨーク大学と学生や教授陣を中心とする学術交流を準備しております。

1984年には、カナダ最大の都市トロントで市制150周年を記念して平和公園が作られ、広島市の平和公園から「平和の灯」が採火され、ローマ法王自ら「火」に点火され、現在も燃え続けています。

さらに、世界三大植物園の一つモントリオール植物園と広島市植物園との間での種子交換や、また、同園で現在建設中の日本庭園において、今月6日、荒木広島市長とドーレ・モントリオール市長による桜と紅葉の記念植樹なども行われております。

加えて、青少年のグループなどの相互訪問、ホームステイ、スポーツ交流など市民レベルでの交流も盛んになってきております。

このような状況の中で、今後ますます学術・文化・経済等の面で広島とカナダの相互理解を深め、友好親善を促進するための一助とすべく、ここに駐日カナダ大使館のご支援を得て、「広島カナダ協会」の設立を發起いたしました。

この趣旨のもとで、諸活動を通じ、カナダとの交流の橋渡しとなることを願っております。

つきましては、本会の趣旨にご賛同いただき、是非、ご入会、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

昭和63年6月

広島カナダ協会設立準備委員会

発起人

竹下 虎之助, 荒木 武, 牧本 幹男,

山・ 芳樹, 松谷 健一郎